

公開講座 第19回光明池セミナー 報告

先に実施しました公開講座「光明池セミナー」について、下記のとおり報告します。また、あわせて参加いただいた皆様、運営にご協力をいただいた皆様に心よりお礼申しあげます。

1 第19回光明池セミナーの概要

日時 令和6年7月23日(火)午後2時から4時30分

場所 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 研究所大会議室

対象 府民、教育関係者、病院関係者、
府内の保育園、幼稚園、小中高・支援学校の教職員及び保護者

内容 テーマ「小児がんについて知ろう」

(1) 講演「小児がんの治療と治療後について」

大阪母子医療センター血液・腫瘍科 副部長 樋口紘平医師

主に、急性白血病の病気のメカニズムや治療のコンセプトについて、図を交えた分かりやすい解説であった。治療の進歩とともに治療成績が良くなっていることや、退院後は徐々に日常生活に戻ることが可能であることなどが理解できた。

講演「小児がん患者の学習支援」

大阪母子医療センター4階西棟 松本弥生看護師

入院生活の中で、きめ細かなケアが行われていることがよく分かる内容であった。医師、看護師だけでなく、ホスピタルプレイスや小児がん相談員、ケースワーカー、他にも多くの多職種スタッフと話し合い調整されていることが理解できた。

(2) 分教室発表「復学に向けて～分教室(院内学級)での取り組み」

大阪府立羽曳野支援学校大阪母子医療センター分教室 崎田奈穂・谷口詩織

地域校連絡会や院内受験などの取り組みと、分教室で学習していた子どもたちの様子の報告があった。

2 アンケート結果報告(参加者数79名)

参加者情報

- ・校種 ①小学校(50%) ②支援学校(35%) ③中学校(15%)
- ・年齢層 ①20~30代(47%) ②40~50代(45%) ③60~70代(6%)
- ・参加回数 ①初めて(90%) ②2回目(6%) ③5回目(4%)
- ・何で知ったか ①学校(67%) ②病院(10%) ③泉北コミュニティ(8%)

セミナーの内容について

- ・医師の講演 ①とてもよく理解できた(40%) ②ほぼ理解できた(40%)
- ・看護師の講演 ①とてもよく理解できた(65%) ②ほぼ理解できた(29%)
- ・分教室発表 ①とてもよく理解できた(57%) ②ほぼ理解できた(39%)

自由記載(一部抜粋)

- ・院内学級の実際の様子を知ることができてよかったです。子どもの生活する地域とのつながりの大切さを感じました。
- ・小児がんの子どもたちがどのような治療や入院生活をしているのか感じたいと思い参加しました。様々な職種の方々が子どもたちの支援に当たられているのだなぁと勉強になりました。復学した時も学校のいろんなポジションの大人が関わっていくことが必要だと思いました。
- ・病気の理解と治療については医師が、学習支援と子どもサポートは病棟看護師が、復学支援については院内学級の先生がと、三者から連携した説明があり理解とサポートについてよくわかりました。

- ・現在実際に治療を頑張っている子どもがクラスにいます。その子どもの将来を考えると今回の講座が受けることができてよかったです。
- ・子どもたちの命を守る、育てる、丁寧な対応についていろいろ学ばせていただきありがとうございました。
- ・入院中の子どもたちの生活をより詳しく知ることができ、改めて地域校としてどんなことができるのか考えさせられました。支援学校との連携についても入院する子どもがいて初めてスタートする印象があり、このような公開講座を開いていただくことで、支援学校の考え方が知れたのでとてもありがたいと思いました。
- ・小児がんの事や治療について知ることができました。復学時の注意点等についてもよくわかりました。また、院内学級においては、いろいろなきめ細かい支援があることが知れてよかったです。
- ・小児がんについて詳しく話が聞けてよかった。改めて子どもたちがきつい治療やきつい時期を乗り越えて学習に向かっていることがわかった。また、様々な方と関わり支援されていることもわかり、より学校と病院の連携の大切さも感じた。
- ・小児がんの児童を初めて担任したため、今日の講演は初めて知る世界ばかりで大変有意義でした。それぞれの現場で一人のお子さんのために懸命にされていることを知り感動しました。

3 考察とまとめ

- ・医師の講演、看護師の講演、分教室ともに「よく理解できた」「ほぼ理解できた」という意見があり、好評であったことがうかがえる。
- ・昨年度と同様に、欠席者が非常に少なかった。「小児がん」のテーマの需要が高かったことがうかがえる。また、大変暑い時期でもあったが申込者の参加の意思が強いのではないかとと思われる。
- ・病院との共催であり、府民講座であるという特色から、現役の教員だけでなく、元教員や学校関係者以外の他職種の参加がある。普段の研修とは違った層にも提言ができたと思う。